日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

全国学童保育連絡協議会

みんなで読もう！ 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2023年12月25日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

ほいく誌の購読の輪をみんなで広げよう、取り組もう！

ほいく誌とともに楽しい仲間を増やしていこう！

石川県 PR動画と津幡町の取り組み

みんなで取り組んだほいく誌PR動画の思いとともに！

第58回全国学童保育研究集会・全体会で放映した『日本の学童ほいく』PR動画の制作を担当しました！！！　もともとは全国学童保育指導員学校・西日本会場向けに制作した、ほいく誌のPR動画です。第58回全国研で、あらためて全国の皆様に見ていただきたいという思いで応募しました。

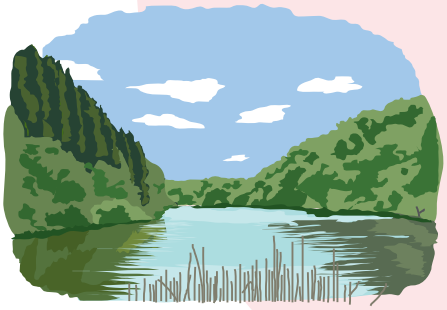
石川県学童保育連絡協議会全体で協力しあって、子どもの様子、指導員・子ども・保護者からの、ほいく誌の魅力の紹介、指導員による劇（記者会見）などを盛り込み、素敵なPR動画が完成しました。指導員学校ではうまく流すことができず、悔しさいっぱいでした。

今回、全国研で流すことができたら、全国の指導員・保護者・関係者などからどんな反響があるのか、楽しみでした！　そして、ほいく誌のPR動画が流れると周りから笑いがあり、大反響！！！ホッとするとともに、みんなで作ったPR動画が全国各地に流れて、うれしさいっぱいでした！

ほいく誌はいろんなテーマ・学童保育に関わる話が載っており、共感を育むとともに学ぶものがたくさんある雑誌であると知っていただければと思います。これからももっと多くの方が『日本の学童ほいく』を購読してほしいと願っています！

研修での活用もご紹介！

津幡町指導員会の、月1回の研修では、学童ほいく誌を使って、みんなで読み合わせをしたり、グループに分かれて、事例（こんなとき、どんな対応をするのかなど）を検討し、学びあっています！



仲間と共に！取り組んだほいく誌PR動画！

日本の学童ほいく12月号

特集 子どもと共に「性」を学ぶ

今回の特集では、子どもと関わる大人が「性」についての知識を身につけること、そして「性」と向きあう際に配慮したいことを学びあうとともに、一人ひとりが大切にされ、安心して過ごすことのできる子どもの生活について考えあいます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万4000部

2023年12月25日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

長崎県佐世保市●指導員から

夏休みのお楽しみ会に、なにかいままでやったことのないものないかな～と思いつつ、2023年8月号の特集「やっぱりいいね！学童保育の行事」を読んでいました。すると、高井友佳子さんの記事のなかに学童保育で「利き『うまい棒』」をしたとの一文が。

早速、私が勤める学童保育でも、6種類の『うまい棒』を用意して行ってみました。目隠しをするとむずかしくなるにもかかわらず、口に入れた瞬間に「○○味！」と答える子。全種類を言い当てた子も6人！

賞品は全員に『うまい棒』の詰めあわせを。そして、全問正解者は、ジャンケンでさらにプラス2本ずつ。私が確実に当てられるのは、コーンポタージュ味（定番！）くらいかな……。

『日本の学童ほいく』2023年12月号「読者のひろば」より

鳥取県鳥取市●指導員から

私が勤める学童保育では、一輪車がブームで、みんなで練習をし、乗れる子同士で「一輪車おにごっこ」をすることがはやっています。私も乗ってみると、小学生の頃以来ですが、意外と乗ることができたので、おにごっこに参加しました。ところが、子どもたちの速さにについていけず……。子どもたちは小回りも上手で、ピタッと止まっては逆走（後ろ向きに進む）したりと、上の学年になるにつれて上達していきます。感心してその姿に見とれていると、タッチされることもしばしばあります。いい運動になり、子ども時代へ戻った気持ちで遊べてうれしかったです。一輪車は一応、屋根の下に置かれていますが、雨が多い鳥取なので、どうしても雨ざらしになり、1年経たずして調節部分がサビて曲がったまま動かなくなり、サドルの高さ調節ができず……。子どもたちは自由時間になると同時に一輪車の場所へ行き、早い者勝ちだったり、時間を決めて交代して遊んだり。それでも順番待ちでケンカになることもあって、もう少し乗ることのできる一輪車があればなと思っていました。すると、夏休み中に校長先生がサビ取り液を携えて学童保育にやってきて、調節部分がびくとも動かなかった一輪車をつぎつぎと直してくださいました！　子どもたちも集まってきて、「ありがとうございました！」が、たくさん聞けた瞬間でした。子どもたちは毎日うれしそうに一輪車に乗って遊んでいます！！

『日本の学童ほいく』2023年12月号「読者のひろば」より

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は岩手県滝沢市から指導員の門田弘之さん

「ほいく誌届いたよ～」学童保育のおたよりポケットに入れていると「今月、誰か載ってない？」「私クイズに送ったの、当たってないかなぁ～」「先月描いたの送ってくれた？」と子どもたちがほいく誌を手に取りながら私に語りかけてくれます。ほいく誌をより近くに、そして指導員も保護者も子どもも楽しんで活用できるように、「一年間に誰かはほいく誌に載ろう」を合言葉に編集部行のポストを手作りし、絵や作文がたまったら送っています。その甲斐あってか、背表紙や子どものひろばに何度か掲載され、「いい記念になるね」「ありがとうございます」「また描いてみようかな～」と子どもたち・保護者からの反響もあります。

ほいく誌の魅力は、さまざまな特集やテーマの記事を読むことで、自分に足りなかった気づきをもらったり、自分自身の実践の振り返りや裏付けができるということもありますし、読者みんなが参加して「みんなで作っている!!」そのことが、「学童保育」そのものと一緒のような気がしています。

バックナンバーを読み返しても、その時々の現場のリアルや保護者の願い・思いがたくさん詰まっています。過去に思いをはせると、たくさんの人達に支えられ、現在の学童保育があることや、この学童保育をよい形で未来に継承していくことが、現在、働いている指導員やともに学童保育を構成している保護者の役割のような気がしてなりません。ほいく誌は学童保育の歴史であり、これからも……と、そんな気にさせてくれる本です。

PS 全国研に参加された保護者の方から、「学童保育に通うまで学童保育のことはよくわからなかった。ほいく誌は、小学校入学前の保護者にもぜひ読んでもらいたい」という感想をいただきました。

編集・発行 全国学童保育連絡協議会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 本郷宮田ビル4階 TEL●03-3813-0477 FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou